

海陽だより

荒尾海陽中学校
第6号(R6.7.1)
「挑戦！ 一歩前進」
文責：校長 右田尚久



文月（ふづき、ふみづき）とは陰暦（旧暦）の7月を意味します。暦のうえでは秋となる文月ですが、七夕や短冊などをその語源とする説が有力です。7月の季語・季節を表す言葉としては、盛夏、猛暑、酷暑、炎暑、盛暑、向暑、厳暑、極暑、烈暑、炎熱など、夏の暑さを感じさせるワードがたくさんあります。

今日からいよいよ夏本番になる文月。湿度も高いため、熱中症にならないように水分を十分に摂ってあと1ヶ月を乗り切りましょう。

森山校長先生を迎えての人権講話



6月26日に全校生徒が体育館に集まり、人権学習として森山校長先生のお話を聞きました。森山先生は、一昨年度まで清里小学校の校長先生で、現在は横島小学校の校長先生をされています。また、熊本県人権教育研究協議会の会長をされており、とても相手に対して温かい心を持って接される方です。

講演は、「なかまをつくる部落に生まれて」と題して約60分間お話をさせていただきました。話の中で、印象に残った内容を要約します。

○「人々はどのように差別されてきたのか」ではない。

「人々はなぜ差別をしてきたのか」なのである。

○部落差別、個人情報調べられプライバシーを侵害される差別、就職差別、結婚差別、コロナにかかった人への差別等様々な差別がある。これらはみな人間がつくった差別だから、人間でなくすることができる。

○「寝た子を起こすな」では部落差別はなくなる。

○部落差別をはじめ全ての差別やいじめをなくすることが重要。

○自分を語ることでより信頼し合えるなかまになっていく。なかまは、いじめや差別をなくしていく。

○熊本の人権教育は、「自分を、家族を、故郷を大好きだ」と笑顔で言える人を育てる。

○水平社宣言は、「同情」ではなく、同じ人間としての「尊敬」を求めた。こうして水平社は生まれた『人の世に熱あれ、人間に光あれ』（1912年3月）

○先生・親・おとながあきらめなければ、子どももあきらめない。

○よき日とともに「社会がどんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して

行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を共に創っていきましょう。自分を、家族を、そして、この熊本県を大好きだと言え学校やまちづくりをみんな実践していきましょう。」と最後にメッセージをいただきました。

みなさんは、差別に対して、自分はどのように行動し、どうしていきますか？

最後に、人権委員会委員長で清里小学校出身である黒崎美陽子さんが立派な謝辞を述べられました。



玉名荒尾中体連大会終わる



前号でもお知らせしましたが、3年生にとって最後の大会となる玉名荒尾中体連大会が6月25日(水)をもって全競技終了しました。どの競技も、「荒尾海陽中学校挑戦! 一歩前進」の幟旗を掲げて各競技の臨みました。全競技を応援することができなかったのですが、各顧問や応援に行った職員からも最後まで諦めず頑張っていて戦っていたとの報告を受け、うれしく思いました。

大会が終わり私にある中学校の校長先生から一本の電話が入りました。内容は、「海陽中学校の生徒の態度が非常によかったです。試合は残念な結果でしたが、胸を張り、相手チームに敬意を払い、涙を拭きながらきちんと挨拶している姿はすばらしかったです。」とのお褒めの言葉をいただきました。海陽中学校のプライドを持ち、精一杯力を出し切ったからこそ、そのような態度がとれたのではないのでしょうか。また、相手チームの保護者からは、けがをした仲間を支えながらもきちんと挨拶をしていた姿に感動しました。」との言葉も聞きました。

このような態度で会場を後にした海陽中の生徒たちを誇りに思います。



よく挑戦しましたね

通信陸上競技大会にて

玉名荒尾中体連大会と同日の

6月22日23日に通信陸上競技大会が熊本市で行われました。各種目で標準記録があり、それを突破すると全国大会につながる大会です。陸上部23名の生徒たちが標準記録や自分の記録突破に挑戦しました。雨の中での開催にもかかわらず、県大会での上位入賞者がいますので紹介します。おめでとうございます



【柴崎りのさん：2年砲丸投3位】

【片山佳音さん：2年800m5位】

先週の朝から私が登校指導に出ようとするすると1階から爽やかな心地いい音楽が流れてきました。耳をすますと、それは吹奏楽部の演奏でした。雨の中を登校してくる生徒たちや私たちに元気を与えてくれました。吹奏楽部の皆さんありがとう。

「もう少し長い期間できませんか?」と担当の金島先生にお願いしたら「次の機会です。クリスマスかな。」との返事。残念! でも次回がとても楽しみです。